



Rokko Catholic Church Bulletin

カトリック六甲教会 教会報

2012

12

No.492



まっすぐな心でイエスを迎える

助任司祭 片柳 弘史

「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう。荒れ野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』」(マルコ 1:2-3)

待降節の初めに、わたしたちは「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ」と叫ぶ洗礼者ヨハネの声を聞きます。間もなくやって来られる主イエスを通るための道を、それぞれの心の中にしっかり準備しなさいというのです。そのために何をすべきでしょうか。大切なのは、神の前で自分の罪深さ認めること、そして悔い改めて神の御旨に自分を委ねることではないかと私は思います。

わたしたちの心が荒野だとすれば、そこにはたくさんの岩が転がっています。例えば、あの人だけは絶対に許せないという憎しみの岩、自分の思った通りに自分も周りの人も動かしたいと願う傲慢の岩、イエスの道をふさぐそれらの岩を取り除けるにはどうしたらいいでしょう。自分の力で取り除けようとするれば、岩はますます大きくなるばかりです。しかし、神の前にへりくだって自分自身も罪人であることを認め、人間の思いの浅はかさを知るならば、誰かへの裁きも自分たちの将来もすべて神の手に委ねられるでしょう。後は、神が全能の力を持って岩を取り除けて下さるはずで

す。
わたしたちの心はまた、でこぼこの山道、谷道にもたとえられます。山は傲慢、谷は卑屈さが作り出すものです。自分にはお金や能力がある、学歴や地位があるというようなことで自分を人より優れたものと思いこむ傲慢の山。それを砕いて平らにするためには、神の前に自分を置く以外にありません。全てを与えて下さったのは神であり、神はすべてを取り去られる力もまた持っておられることを知れば、おごり高ぶった心の山はしだいに低くされていくでしょう。

自分はダメな人間だ、生きている価値などないと思い込む卑屈さの谷も平らにしなければなりません。罪深く弱い自分を、神様がこれまでどれだけ大切に守り、はぐくんでくださったかを思えば、おのずと卑屈さは消えるはずです。逆に、自分はもっと偉い人間になれたはずだった、人から認められるはずだったという思いが残っていれば、卑屈さはいつまでも消えることがないでしょう。

自らの罪深さを自覚し、神の愛と力を信頼してすべてを神の手に委ねるとき、わたしたちの心の岩は取り除けられ、山や谷は平らにされます。憎しみや嫉妬、不安や恐れ、傲慢や卑屈の岩を取り除け、傲慢や卑屈のでこぼこをならし、まっすぐな心でイエス様をお迎えしましょう。



忘れないで！

東日本の被災地から(9)

ボランティア活動で感じたこと

東日本大震災以降被災地に赴き、今年は3カ月おきに大船渡ベースを基点にボランティア活動をさせていただきました。

大船渡市を中心に買い物送迎、仮設訪問(館下仮設・後ノ入仮設)、お茶っ子(ベースでの喫茶サービス)、個人宅の荷物移動、仮設からの引っ越し作業、地元ボランティア団体主催の赤ちゃんサロン補助、介護老人保健施設松原苑での食事・入浴介助、大船渡市漁協協同組合の作業支援、大船渡市・陸前高田市社協へ派遣と活動範囲が、年初に比べれば徐々に増えてきています。

派遣先は、ボランティア個人選択に任せられていますが、専門的な資格が必要な活動、肉体労働が必要な活動、事故による被害者への補償問題、最悪刑事告訴が懸念される活動もあります。

阪神大震災の時は、震災後あちこちで家屋を倒壊させる音が聞こえてきたと思いますが、二年近くもたとうとしているのに、いまだに解体ビルからご遺体が見つかるケースがあります。基礎が残り、草が生えている殺風景で瓦礫が隅に寄せられた程度の風景が広がる陸前高田市。また大槌町に比べ、大船渡市の復旧速度は表向き進んでいるように見えます。

阪神大震災と同様仮設住宅入居者と自宅居住者との葛藤、みなし仮設居住者の実態把握不足、自宅も流され仕事もなくてどうやって生計を立てればよいのか分からない人々がおられます。一人ひとり置かれている状況が違う中で、どうお手伝いしてよいのか分からない程問題は複雑で、課題も多くなってきました。

また、各教会から派遣される参加者が、『何かお役に立ちたい』との思いだけで現地に来られても無理があるのでは。現状視察で、ボランティアに来たのではないとか、所属教会内の仕切りを主張されるグループ等現地運営に支障をきたすケースも散見されました。

来年度、ベース近くに住民が集まれる公民館、陸前高田にはあしなが育英会により神戸レインボウハウスと同様の親を亡くした子供達、子供を亡くされた親が集まれる施設が建設され、本格的な活動を開始すると聞いております。

ボランティア活動、運営方法を一度洗い直し、支援している大阪教区も含め真剣に継続的な活動内容を議論すべき時期にきているのではと思います。

本来なら被災地現状を記述しなければならないと思いますが、被災地に寄り添ったボランティア活動が継続されることを願い、敢えてボランティアの現状を報告させて頂きました。

六甲教会信徒 中川 滋

～．

<行事報告>

『報告会 ミンダナオこども図書館の今』(10月28日)

10月28日の10時ミサの後、第一、第二会議室に於いて、ミンダナオこども図書館(MCL)主宰の松居友さんの報告会が開かれました。

ちょうど10月の2週目に入ってミンダナオ和平が枠組みに於いて合意されたというニュースが発表されたばかり。報告会も明るい表情で行われました。

宗教の対立に名を借りた政治戦争の絶えない地域で、累計上世界一と言われる難民の、表情さえ失った子ども達をケアするためにMCLを立ち上げ、幼稚園から大学までの支援を目指して活動を続けているそうです。ミンダナオってどこ？という認識の私達ですが、実は飛行機で3時間の隣国であること、その森林伐採によってラワン材を輸入し、自国の森林は保護している日本。ジャングルの木々が伐採

され、山肌が裸になることが大洪水の原因となっていることはこれまで伝えられていませんでした。また、日本に大量に輸入されている高原バナナですが、そのプランテーションのために多くの原住民が居住していた地を追われた事実も、知られてはいません。その地域で全ての宗教を受け入れつつ生活を共にし、共に祈り、自分達で植林作業に乗り出した子ども達の様子を克明に追った映像が紹介されました。松居さんの長男の陽さんの制作です。中でも、カトリック、プロテスタント、イスラムの子ども達が心を合せて作り上げた「平和の祈り」の映像は、参会者の胸に直接ひびくものがありました。

MCLで生活する難民の子ども達の数、現在120人。MCLに行けばお米のご飯が食べられるというので、次第にその数を増して、1食分に消費するお米は50キロを超えるそうです(食事はほとんどご飯が中心)。生活費はほとんどかからないが、日々の食費だけはどうしようもない・・・という本音が出た後、会場に置かれた献金箱に寄せられた金額は翌日、郵便局からMCLの口座に入金いたしました。

松居さんは、この報告会に先立つ10月25日に、大阪府堺市から国際平和奨励賞を受賞され、大きな励みになったと言います。アウンサン・スーチーさん、台湾赤十字社と共にの受賞でした。「自分を愛するように隣人を愛しなさい」という言葉を引きながら、アジアの隣国同士が自国のように愛し合ったなら、武器商人の介入もなく、戦争は起こりえないと強調して、報告会は締め括られました。



社会活動部 MH 記

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

<行事報告>

『祈りの道場』(11月3日)

今回は「信仰年」にちなんでヨハネによる福音書 2:1～12、7:7～15、14:1～12、19:25～27「カナの婚礼」「サマリアの女」「イエスは父に至る道」「十字架のそばに立っている母マリア」について黙想しました。自分の信仰を確認し、くたく無く、生活の細部に信仰がしみ渡る生活を送る事だと思います。

また、ミサの中で復活のイエスの傷跡、釘の跡が光り輝いていた。私達もイエスの前に立った時、個人個人の傷跡も無数に光り輝くと話され、大きななぐさめと希望を持つ事ができました。

このような機会を与えて下さいました神様と養成部に感謝いたします。黙想中、小さい時口にしていた讃美歌が聞こえてきました。「けさも私の小さき耳に主のみことばに従う日となしたまえ」「我がまを捨てて人々を愛しその日の務めをなさしめたまえ」

お忙しいとは思いますが、年に数回は予定に入れていただきたいです。英隆一郎神父様の御健康を心からお祈り申し上げます。

合掌 MN

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

<行事報告>

『チャリティーバザー』(11月11日)

だれが雨男か、はたまた雨女か。今度も雨にふられました。「納涼の夕べ」にひきつづき、「チャリティーバザー」も…。11月11日(日)は恒例のバザー開催日でした。雨天決行、広い駐車場が使えないので建物の中で、寒々とした雨よけテントの中で、それでも熱気あふれるみなさんの思いが伝わってくる秋の「おまつり」でした。

各種模擬店、ゲーム、蚤の市、お茶席など、今回はおでんに代わって豚汁がお目見えしましたが、好評でついに食券払い戻しのうれしい誤算、完売しました。

主聖堂ではオルガン体験教室が開かれました。各方面からの援助奉仕グループもそれぞれに工夫をこらしたお店を開きました。

雨天の割にはお客様の出足も悪くなかったように思いましたが、売り上げは平年の7割ほどでした。後片付けも大勢のみなさんのご協力のおかげでスムーズに運び、雨にぬれたテントの撤収・収納は乾くのを待って、翌日、翌々日にわたって有志のみなさんの働きによって無事終えることが出来ました。地区会を絆とした信徒の皆さんの自発的な奉仕に対し感謝の限りの思いを致しました。「みんなで出来た」これが実感です。ありがとうございました。でも、やっぱりお天気の方がいい。

詫 洋一記



開門と同時に古着コーナー、蚤の市、他の販売コーナーに押し寄せる人の波に圧倒される。



食物メニューもチラシ寿司、さんま寿司、カレー、おにぎり、豚汁そして恒例の焼き鳥、焼きソバと豊富。



イグナチオホールは食堂。

子供たちは宝釣りやパイプオルガン体験などに大喜び。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

<行事報告>

『七五三の祝福』（11月18日）



11月18日、七五三の祝福が10時のミサの中で行われました。

いつもよりおめかしをして聖堂1列目に座る子供たちは、緊張しつつ、少し大きくなったことを自覚し、他の人たちから見つめられ、祝ってもらうことに背筋を伸ばしているようでした。保護者の方はお子さんの成長を実感され、信徒は共同体の小さな仲間の大きな未来に思いを馳せたことでしょう。

神様のお恵みをいっぱいいただいて、元気に、優しい人に育っていきましょう。

＜祝福を受けた子供たちの名前＞

健史	(たけし) くん	7才
愛湊	(あいり) ちゃん	7才
まりあ	(まりあ) ちゃん	7才
若菜	(わかな) ちゃん	7才
龍史	(りゅうじ) くん	5才
光一	(こういち) くん	3才
大翔	(ひろと) くん	3才
心海	(ここみ) ちゃん	3才
凜奈	(りな) ちゃん	3才



～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

＜行事報告＞

『東日本大震災チャリティー講演会』（11月18日）

カトリック六甲教会と兵庫・生と死を考える会の共催で、東日本大震災チャリティー講演会「勇気と希望の源泉」というテーマで開催しました。講師は仙台教区釜石ベースキャンプで震災ボランティアを続けておられる、吉田俊雄氏とシスター高木慶子でした。六甲教会の信徒の方、他教会の方、一般の方など80名くらいが御参加下さり、厳しい現地の様子と、それでもその中に小さくても希望を見出し、頑張っておられることをお話しになりました。

参加者の皆さまからいただいた、ご寄付は陸前高田市で、震災以前から活動されていた、子育て支援グループ「おやこの広場・きらりんきっず」に直接お送りいたしました。ご協力いただきありがとうございます。

久本 順子

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

＜行事報告＞

『援助修道会主催諸死者記念ミサ』（11月23日）

援助修道会主催の死者を悼むミサが今年も100人余りを集め、コリンズ神父の司式で行われました。

毎年、援助修道会に所縁のある方々が集い、亡くなられた身近な方々に思いを馳せます。写真を祭壇に並べ、祈りを捧げました。



ミサの後の茶話会にも多くの方が残られ、和やかに語り合われていました。

~~~~~

12月28日(金) 教会報1月号発行

12月22日(土)午後及び12月24日(月)午前(お台所) ともしびケーキ作り

カトリックの当番日は 1/1(火)と1/5(日)の  
予定です。





# ♪♪♪♪ 第 11 回 クリスマスコンサート ご案内 ♪♪♪♪

**開催日:** 12 月 9 日(日)  
**時間:** 13 時 30 分～16 時  
 (開場 13 時)  
**場所:** カトリック六甲教会主聖堂  
**入場料:** 無料  
**指揮:** エリック・コロ  
**出演:** 声楽アンサンブル カメラータ神戸  
 ゆりかごの会、カトリック六甲教会有志、  
 一般有志、メサイア室内楽アンサンブル  
**曲目:** クリスマスキャロル、メサイアより(ヘンデル作曲)



毎年12月の待降節に行って来ましたコンサートも今年で11年目を迎えます。この11年間コーラスメンバーも大半が変わらず残り、その熟練度も相当上がってまいりました。ヘンデルはイエスの来臨予言、降誕、受難、復活を、旧約のイザヤ書、マラキ書、詩篇、新約のマタイ、ヨハネ、ルカ、ヘブライ書、ローマ書をテキストに使い、みごとなアートに仕上げました。エリック先生の指導により10年積み上げて来たアートを皆さまにお届けいたします。

毎年400名ちかい聴衆がご来場になります。その半分は普段教会とはご縁のない方たちです。私も、貴重な信徒使徒職の一つであるとの自負を持って頑張っています。皆さまお友人をお誘いのうえ、是非ともご来場ください。入場は無料です。

2012年待降節 クリスマスコンサート実行委員会

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．

## 第 54 回神戸市民クリスマス

### キャロリング in KOBE 「こころをむすぶクリスマス」



聖句: 「あなたがたに平和があるように」 ヨハネによる福音書 20 章 19 節より

日時: 2012 年 12 月 14 日 (金)

|   |          |             |                     |
|---|----------|-------------|---------------------|
| 1 | キャロリング   | 17:00～18:30 | 北野コース・元町コース・元町北コース  |
| 2 | 子どもプログラム | 17:30～19:15 | カトリック神戸中央教会 集会室及び中庭 |
| 3 | ほっとタイム   | 18:00～19:15 | カトリック神戸中央教会 中庭      |
| 4 | 祈りと祝福のとき | 19:30～20:30 | カトリック神戸中央教会 大聖堂     |
| 5 | 青年のつどい   | 20:30～21:30 | カトリック神戸中央教会 集会室     |

六甲教会は北野コースの担当です。みなさまのご参加をお待ちしています。

ご参加の方は、風見鶏の館前に16時50分までにお集まりください。

代表 蛭田 武

カトリック六甲教会主催

## 「クリスマス音楽の集い」



- 日 時： 2012年12月23日（日）13：00
- 場 所： カトリック六甲教会 主聖堂
- 入場料： 無料
- 出 演： ビオラ：大津 睦 バイオリン：上田 朝子  
フルート：森脇 一有美 オルガン：三浦 優子  
ソプラノ：高山 教子・浅野 純加  
女声アンサンブル カンターテ・ドミノ  
カトリック六甲教会聖歌隊  
カトリック六甲教会混声合唱団 他
- プログラム：  
ベートーベン “セレナード” Op. 25 より 1, 2, 3  
ヘンデル メサイアより “シオンの娘よ、大いに喜べ”  
“ああ美しいかな”  
クリスマスキャロル 他

なお、会場にて東日本大震災の被災者のための募金をお願いいたします。



## みんなの広場

### Rorate caeli

ヨハネ 三好 榮之助

毎年待降節に入るとミサの前に歌われたクノル師訳の“Rorate caeli”を聞かなくなって久しい。

12月はクリスマス。「主の降誕」ではない「クリスマス」。初期の教会には今のクリスマスはなく、1月6日の御公現を祝っていた。「クリスマス」が祝われるようになったのは御降誕から300年あまり経ってからであったとされている。

待降節、降誕節、公現、七旬節、六旬節、五旬節、四旬節、復活節、聖霊降臨後の聖節。嘗て1年は「聖暦年」と呼ばれこの順に区分されていた。1年は「待降節第1主日」に始まる。わたしたちにはこれが「元日」だが意識しているだろうか。「聖暦年」は救いの歴史であり単なる過去の思い出ではなく一人ひとりの救いの日々の実現である。

「キリスト教の記念は単なる人間的な追憶、何の現実性も持たない思い出ではなく、キリストがその記念祭を通して行われたわざが体験されるのである。キリストのわざは、人間のわざとしては二千年前に過ぎ去った。しかしキリストは神がご自身を表されたかたであり、そのわざは神のわざである。したがって、それは永遠の現実であって過ぎ去ることはありえない。したがって記念（アナムネシス）することによって、時間的にも空間的にも限られた存在であるわたしたちも永遠の神と交わることができるのである。ここに典礼暦と、すべての典礼祭儀におけるキリストの現存の神学的基礎がある。このようにキリストの生涯は、キリスト者の生活の一年を周期とし、全生涯わたって記念されていく。これが教会の典礼暦の神学的な意義なのである。」

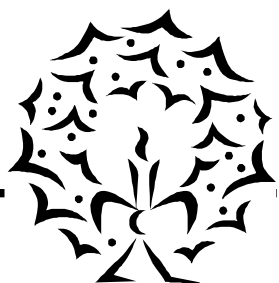
「典礼の祈りというものは、キリストを通して聖霊の交わりの中で神である父に向けられるものである。奉献文の結びの栄唱にもあるように、典礼は、キリストによって、キリストとともに、キリストのうちに、聖霊の交わりの中で、全能の、神である父に、すべての誉れと栄光が世々に至るまで帰せられるために行われる礼拝集会である。」

今はその存在すら忘れられているような六甲中学校卒業生、典礼神学者土屋吉正師の著「暦とキリスト教」（1987年、オリエンズ宗教研究所）の抜粋である。

待降節には青葉の輪を作り四本の蠟燭を立て第一主日には最初の一本に、第二主日には二本と灯火を点け続け、“Rorate caeli”も、一節ずつ歌い加えて救いの歴史を想いおこし、“Stille Nacht, heilige Nacht”を迎える。神は、神に背き樂園から追放された人間に何時の日にか再び樂園の門を開くと約束された。罪に堕ちた天使には与えられなかった約束を。御降誕はその約束が目に見え触れる形で現れた最初である。ご受難、ご死去、ご復活、聖霊降臨によって約束は完成された。聖暦年の初めにあたって殆ど意識されなくなったような聖暦年を想いおこしてみよう。

六甲中学校開校以来、六甲小教区開設以来何人が洗礼の恵みを受けたか。その中の何人が終生信仰に生きたか。教会が今殊更に「信仰年」を言わなければならないのは悲しい現実ではないか。教会報11月号のコリント師の巻頭言をしっかりと心に刻み込んでおこう。（終）





## 2012 年クリスマスと 2013 年元旦ミサの時間について

12 月 24 日(月) 主の降誕 (夜半のミサ)

**16 時 30 分、19 時、21 時 (海星病院 17 時)**

19時と21時のミサが始まる前に、キャロリングをします。

開始時間は、19時ミサの前: 18:30頃 ~

21時ミサの前: 20:30頃 ~

歌声に耳を傾けながら、静かに夜半ミサの始まりを待ちましょう。

12 月 25 日(火) 主の降誕

**7 時 (早朝のミサ)、10 時 (日中のミサ)**

1 月 1 日(火) 神の母聖マリア

**0 時、7 時、11 時**

1 2 月 2 4 日は駐車場がたいへん混雑します。

できるだけ公共交通機関をご利用ください。



### 事務所年末年始休業のお知らせ

**六甲教会事務所 2012 年 12 月 29 日~2013 年1月 5 日(土)**

**大阪教区事務局 2012 年 12 月 29 日(土)~2013 年1月 7 日(月)**

教会報1月号の発行は、12 月 30 日(日)です。

編集会議 12 月 23 日(日)です。

記事原稿は、12 月 16 日(日)正午までに信徒会館  
受付へご提出願います。 (広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| カ | ト | リ | ッ | ク | 六 | 甲 | 教 | 会 |
| 〒 | 6 | 5 | 7 | - | 0 | 0 | 6 | 1 |
|   |   |   |   | 神 | 戸 | 市 | 灘 | 区 |
|   |   |   |   | 赤 | 松 | 町 | 3 | - |
|   |   |   |   | 1 | - | 2 | 1 |   |
| 電 |   |   | 話 | 0 | 7 | 8 | - | 8 |
|   |   |   |   | 5 | 1 | - | 2 | 8 |
|   |   |   |   | 4 | 6 |   |   |   |
| F | A | X |   | 0 | 7 | 8 | - | 8 |
|   |   |   |   | 5 | 1 | - | 9 | 0 |
|   |   |   |   | 2 | 3 |   |   |   |
| 発 |   |   |   | 行 | 責 | 任 | 者 | 松 |
|   |   |   |   | 村 |   |   |   | 信 |
|   |   |   |   | 也 |   |   |   |   |
| 編 |   |   |   | 集 | 広 |   | 報 | 部 |